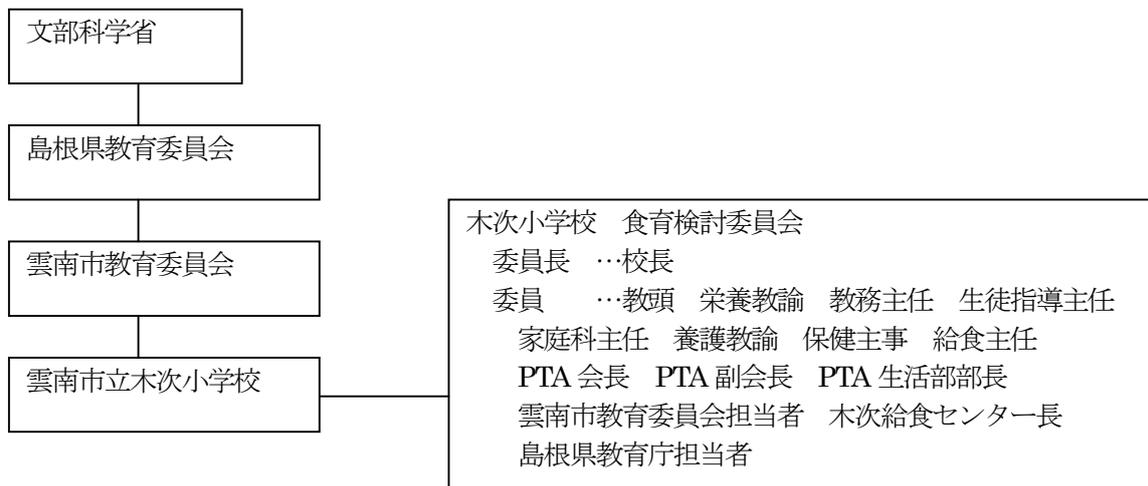


# 栄養教諭を中核とした食育推進事業 事業結果報告書

都道府県名	島根県
推進地域名	雲南市

## 1. 事業推進の体制



## 2. 事業内容

テーマ1	食に関する指導の充実			
<p>1 食に関する指導の全体計画と年間指導計画に沿っての指導 食に関する指導の全体計画と年間指導計画を作成した。 (島根県教委のすこやかしまねっこ各発達段階に身につけるべき具体的内容を参考)</p> <p>○学校給食時間…目標に向けて教職員が共通意識をもち協力しながら継続的な指導 食に関する指導と年間指導計画に沿って月目標をたて指導を行った。 本校では、各教室で給食を食べている。給食時間の指導は、担任と補助の教職員の二人体制で実施している。 栄養教諭は、各教室を訪問し、担任と給食についての共通理解を図りながら盛り付け方や食事のマナーの給食指導や偏食や少食などの個別指導にあたった。</p> <p>○教科等</p>				
	学年	教科名	単元名	指導教員
	1年生	総合	野菜の栽培 (さつまい)	担任
	2年生	総合	野菜の栽培 (ミニトマト・さつまい)	担任
	6年生	理科	じゃが芋の栽培 	担任
	5年生	家庭科	お弁当の日の計画	教科担任と栄養教諭
			おいしいごはんの炊き方	//
			味噌汁の実の工夫	//
	6年生	家庭科	朝食の大切さと工夫について	教科担任と栄養教諭
			お弁当の日のおかず決め	//
			お弁当の日の調理実習	//
			まかせてね 今日の食事	担任と教科担任
			リクエスト献立の作成	教科担任と栄養教諭

※ お弁当の日の家庭科での事前学習



当日の給食を実際にお弁当につめてみる

○特別活動

①児童会活動（保健委員会）

- ・あきば班（縦割り）対抗夏休みクイズ大会の実施 7月17日（火）  
食生活・熱中症・生活リズム等夏休みの過ごし方にポイントをしぼったクイズ劇  
長期休業を健康に過ごすための自主性を培った。
- ・コント劇 12月3日（月）  
生活リズム調査の結果発表と朝ごはんと排便をテーマにしたコント劇  
保健委員会の児童の行ったクイズや劇に全校が興味をもち、楽しみながら学んでいた。
- ・健康ポスターを使った校内クイズラリーの実施 2月  
児童が自作のポスターの下に関連クイズを出題し、校内の各所に張り出し、興味のある児童が休み時間にクイズを解いて歩きまわった。全部で10問のポスター&クイズを出題し全校の約三分の一が参加したが、全問正解は1名だった。



夏休みクイズ大会



児童が作成したオリジナルキャラクター



クイズラリーの解答は後で張り出し、全校児童にひろめた。

○学級活動

学年	単元名	指導教員
1年生	なんでもたべるとげんきになるよ (10/1)	担任と栄養教諭
2年生	やさいのなまえをしろ (10/26)	担任と野菜生産者
	ぼく、わたしのおやつ (7/10)	担任と栄養教諭
3年生	歯と口の健康教室 (10/26)	担任と歯科衛生士
4年生	食べ物のはたらきをおぼえよう (5/22)	栄養教諭
	バランス良く食べよう (10/26)	担任と栄養教諭
5年生	よくかんで食べよう (10/26)	担任
5年生	楽しい食事 (10/26)	担任と栄養教諭
(特支)	お料理をしよう (10/26)	担任
6年生	味覚の授業 (11/13)	フランス料理店シェフ

※10月26日の授業公開日に全校一斉に食に関する授業公開日

授業公開日に保護者もいっしょに地元の野菜作りについて学ぶことで食に対する理解が深まった。野菜生産者へのお礼のお手紙に保護者の言葉も書き添えられ生産者にも喜ばれた。



## 2 PTA との連携

### ① 「お弁当の日」

・お弁当の日を家庭科で学習・計画し家庭で実施した。

第1回 6月25日 6年生

第2回 9月9日 5・6年生

第3回 12月3日 5・6年生



### ② 「ここにこカード（台所のお手伝い）」

6月・9月・12月・1月・2月の各月5日間実施

生活リズム調査の項目に台所のお手伝い項目を設け台所のお手伝いをする機会を増やし、生きる力を培った。

### ③ 食に関する講演の開催 10月26日（金）

演題「楽しく食べて元気な優しい人になりましょう！」

講師：NPO法人島根糖尿病療養支援機構 副理事長 田中美紗子 先生

対象 5・6年生・保護者・教職員 参加者 122名

日常食べている食品に含まれている砂糖の量やエネルギー、ゼロの清涼飲料水など話題の食品が体にどのような影響を与えるかなど食事と健康の関わりについて親子一緒に具体的に学んで食生活を見直す機会になった。



### ④ 親子料理教室の開催

・親子そば打ち体験 7月7日（土）

対象2年生と保護者 参加者 29名

地域の方を講師に招き親子でそば打ちを体験した。



### ⑤ 冬休み台所のお手伝いチャレンジの実施

・お手伝いの内容に級をつけたチャレンジ表を配布し家庭で実施。

お手伝い27項目を簡単な10級からはじまり、難しい初段までに分けて順次チャレンジし、実施後、保護者に級の認定をもらった。

初めてのお手伝いに挑戦したり、目標をもって取り組めた児童も多く、食への興味を広げるとともに、自立へつなげる第一歩となった。



### ⑥ PTA 文化部との連帯…「PTA だより」食育コラムの開設

・おやつと砂糖について、保護者からの発信

### ⑦ 親子給食試食会の実施

・5年生と保護者 6月12日（火）

・2年生と保護者 10月26日（金）

例年、2年生を実施していたが、今回5年生も実施したところ、「低学年の時とは違う視点で子どもが食べる様子を見ることができた。」と保護者にたいへん好評だった。児童も、いつもと違う雰囲気の中でマナーに気をつけたり、周りの大人と会話をしたりし、食事を楽しんで食べる良い機会になった。

## 3 学校給食の充実

### ① 地産地消の推進

・地元の野菜生産グループから出荷された旬の野菜を中心に給食献立を作成

・給食の放送・給食だよりで、食材や生産者の思いなどを発信

・市内の森林組合から、筍やきのこなどを今年度から導入開始

・野菜生産グループとの交流給食を実施 11月26日（月）

生産グループ（8名）や給食センターの職員（1名）を迎え、各教室で交流給食を行った。

野菜作りの苦労や工夫を聞いたり、作ってくださる人を知ったりすることで、給食に対する興味関心が高まり、感謝の気持ちをもちながら、健康へとつながる食の意味を考えることができるようになった。

・生産者の畑（3年生・社会科）の見学を実施 12月7日（金）



### ② 献立の教材化

・行事食や地域の旬の食べ物、各県の郷土食などを計画的に取り入れた献立を作成

・給食のねらいや食材についての知識が児童や教員に伝わるように給食の放送や給食だより等で発信  
（町内の他の5校5園にも、放送原稿を提供）

- ・毎日の給食食材の栄養黒板を昇降口前に設置
- 4 食育だよりの発行  
保護者、教職員対象に発行 (7・9・12・2月発行)

テーマ2

テーマ3

### テーマ1～3に共通する具体的計画

食育推進事業の効果を見るために、児童を対象に食生活調査を実施

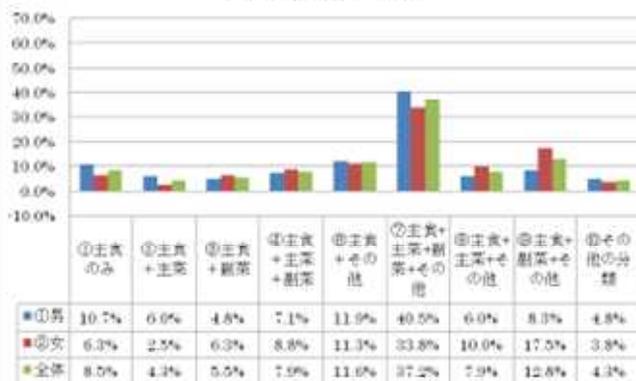
- 全児童対象の食生活調査 7月と1月に実施
  - ・朝食欠食を毎日している児童はいないが、主食・主菜・副菜をそろえて食べている児童が少なく、主食だけ食べている児童や主食を食べない児童もいた
    - 朝食をバランスよく食べる児童を増やす
  - ・食事のお手伝いをしない児童の男女差が大きく、男子はしていない傾向がみられた
    - 食事のお手伝いをする児童(特に男子)を増やす
- 給食の残食調査 7月と1月に実施
  - ・高学年の残食はほとんどみられないが、中・低学年は、個人差もあり残食が見られた
    - 苦手な食べ物もがんばって食べようとする児童を増やす

### 本事業における評価指標と考察

今年度7月と1月の調査結果

- 朝食を毎日欠食する率 0%→0% 朝食を時々欠食する率 8%→6.3%
- 朝食に主食・主菜・副菜をそろえて食べている児童(表の④+⑦)の率 45.1% → 61.9%
- 朝食に主食だけ食べている児童の率 8.5% → 3.8%
- 地場産物活用率(地元野菜) 56.4%→56.5%
- 給食の残食率 2.3% → 0.1%(給食の提供量と残食の総重量から算出)
- 食事のお手伝いを毎日している児童 男子 20.0%→17.7% 女子 28.8%→22.2%

朝食の分類 7月



朝食の分類 1月



- ・朝食については、主食・主菜・副菜をそろえてバランスよく毎日食べる児童が増加した。また、主食しか食べていない児童は減少した。しかし、主食を食べない児童は、わずかだが、増加した。今後も朝食の大切さを訴える取組を継続する必要がある。
- ・お手伝いについては、「冬休み台所のお手伝いチャレンジカード」によって食に関するスキルの向上に効果があったことが、児童や保護者の感想から伺える。保護者の学校評価において、家族の一員として決まった手伝いをさせている保護者の割合はわずかに増加した。(保護者の学校評価 H23年度57.7%→ H24年度59.3%)  
今後、お手伝いに関しては、家族の一員としての所属感・有用感を持たせ、お手伝いの種類を増やしたり、スキルアップしたりすることを軸として、楽しさや喜びを感じながら生きる力を育てるように進めていきたい。

## 本事業の成果

- 校内における食育推進体制が整備され、食育検討委員会や職員会議で児童の実態や課題・対応策を検討することで、教職員の理解が深まり学校全体で共通理解のもとで効果的な食育を行うことができた。
- 児童・保護者・教職員に食事の重要性が認識され、朝食をバランスよく食べる児童が増え、給食の残食も減った。
- 児童の生活実態調査(にこにこカード)や冬休みお手伝いチャレンジ・給食試食会・お弁当の日などを通し、保護者との連携が深まり、家庭と連携して食育を推進することができた。
- 児童の家庭での食に関するお手伝い体験をする機会を増やしたことで、食に対する興味・関心が高まりつつある。また、児童に対して一方的な食に関する情報を与えるだけではなく、児童会活動などの場面で児童自身が課題を見つけ改善に努めることができるような主体的な姿勢をもたせる機会を与えることは、食を通しての健康生活を自ら管理する能力を身につけることにつながった。

## 今後の課題(今回の事業を実施した結果、新たに見えた課題)

- さらに食事の重要性を理解させ、バランスのよい食事、特に朝食の内容をよりよくしようとする家庭を増やしていく必要がある。将来の中学校での欠食を予防するためには、今後、中学校との連携が課題である。
- 将来の自立に向けて、家庭での食の体験(お手伝い)の体験を増やし、スキルアップする必要性を痛感した。このことについて児童だけではなく、保護者も認識できるように働きかけ、地域や社会全体でその働きかけに共通理解できる背景が大切であると考ええる。
- 校内において給食の残食は減りつつあるが、担任や他の職員と密に連絡をとりながら、少食の児童や極端な偏食の児童が、すこしでも自信をもって食べられるように家族を巻き込んだ個に応じた指導も更に必要であると痛感した。
- 市全体での食育を進める上で、学校、家庭の連携は勿論だが、地域をあげて幅広い食育を推進するためには、市内で食育活動をしている各種団体との協力連携も効果的であると考えられる。
- 雲南市では6名の栄養教諭がそれぞれ1センターを受け持ち給食管理とそれぞれのセンターの受配校に対し食に関する指導を行っている。現在、職務の合理化のために、給食だよりの記事の共有化や月4回程度の統一献立を実施し情報交換をしている。さらに効果的な指導や実践ができるように栄養教諭の横の連携を強化し、児童の心身の健康つながる食育を推進することが大切であると考ええる。